日本経済新聞（夕刊）　2004年（平成16年）10月15日（金曜日）

道路はがし川を復活

ソウル 進む都市改造

市長が旗振り 大統領選への布石？

韓国の首都ソウルで都市改造プロジェクトが進んでいる。「清渓川（チョンゲチョン）復元事業」――。一千万都市の中心街で全長六キロメートルにわたってコンクリートの道路を引きはがし、その下を流れていた河川を復活させるという試みだ。完成予定は来年秋。旗振り役の李明博（イ・ミョンパク）ソウル市長は「水と緑の都市再生」を手みやげに二〇〇七年の次期大統領選に打って出るとの見方が広がっている。

大企業や銀行の本店など高層ビルが立ち並ぶ鍾路（チョンノ）地域。八車線ある大通りの中央の四車線を建設工事現場が塞（ふさ）ぎ、自動車がその両脇を窮屈そうに走る。上部空間に建設され、周辺の視界を遮っていた四車線の高架道路は既に二年前に撤去されている。

ソウル市の全額負担で総工費三千六百億ウォン（約三百六十億円）をかけた河川復元事業がスタートしたのは昨年七月。完成予定は来年九月で、わずか二年三カ月の工期だ。河川や橋りょう、下水道の工事などが各国の土木技術者らも驚くほどの急ピッチで進んでいく。

清渓川はソウルの中心部を西から東に向けて流れ、漢江と合流する全長約十一キロの河川。李氏朝鮮時代以来、都の中部を政治、社会、文化面で区分する象徴的な清流だったというが、生活河川として汚染が進み、一九五八年からふたをかぶせて道路を造る本格的な工事に着手。六七年から七一年にはその上部に高架道路も建設された。

三十年以上が経過し、高架道路の老朽化や環境保全の高まりなどから、大規模な修繕工事を求める声が強まった。大学教授らは清渓川復元計画を提唱、これを知った現在の李市長がソウル市長選の公約に掲げて〇二年六月に当選した。

清渓川の高架道路周辺は零細の商店が立ち並ぶ地域だった。立ち退きを求められた零細の商店主や露天商は抗議し、一時は警官隊が出動する騒ぎに発展したが、代替地の提供など話し合いで決着。懸念された交通渋滞も関係者の予想ほどではなく、ドライバーの反発は強くないという。

李市長は六五年に大学卒業後、韓国大手建設会社に入社、三十六歳の若さで社長に抜てきされた「サラリーマン神話」を持つ。今回の大事業にも企業経営の視点が見える。

清渓川復元計画の意義として掲げられた一つに「ソウルの産業競争力の強化」がある。漢江の南側に位置する江南（カンナム）地域に比べ、開発が遅れている江北（カンプク）地域を河川復元をテコに国際金融やビジネスの拠点によみがえらせるという構想だ。

李市長は朴槿恵（パク・クンヘ）ハンナラ党代表らとともに次期大統領を目指す同党の有力候補の一人と目されている。ソウルの再開発をにらむ清渓川復元計画は「ソウル一極集中」の弊害を唱え、首都移転に政治生命をかける盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領への挑戦状のようにも映る。

ソウル市庁前には、やはり李市長が就任後に手掛けた緑の芝生が広がり、市民でにぎわっている。半面、李市長が繰り出す都市改造事業には「民心はなく、あるのは『李心』だけ」などと揶揄（やゆ）する声も出ている。「民心」がどう動くかは分からないが、いずれにせよ来年秋にソウルで新しい景観が見られるのは確かだ。

（ソウル＝峯岸博）

来秋の完成に向け急ピッチで工事が進む